

## 環境振動設計指針策定 WG 2017 年度第 2 回 議事録 (案)

A. 日 時 2017 年 6 月 20 日 火曜日 17:30～19:30

B. 場 所 建築学会 304 会議室

C. 出席者 濱本主査 他 16 名

D. 提出資料 (提出委員名)

No. 17-2-0 環境振動設計指針策定 WG 2017 年度第 1 回議事録(案)

No. 17-2-1 設計から見た振動計測の重要性(公開研究会発表原稿修正版)

No. 17-2-2 居住性能評価指針・同解説 目次案

No. 17-2-3 環境振動設計指針 目次案

E. 議事内容

1. 議事録(案)の確認 (資料 No. 17-2-0)

○議事録(案)は承認された。案をとって議事録とする。

2. 新メンバーの紹介 (濱本主査)

○振動計測分野の強化のため、2名の委員が加わった。

○WG メンバーは定員 15 名のため、1 名今回よりオブザーバになって頂いた。

3. 公開研究会(7/13 開催)の修正原稿確認 (資料 No. 17-2-1)

○前回 WG の意見を踏まえ原稿を修正した。主な修正点は下記の通り。

・性能確認のための振動計測の目的を、「性能を**保証**するため」から「性能を**説明**するため」という表現に変更した。

・図 2 の横軸を、頻度の低いものから高いものへと変化するように修正した。

・表 1 の「対象期間」の数値が例示であることを明確にするために、文章中に「対象期間の数値は考え方の例として示したものである」という一文を追記した。

→ 各自原稿を確認し、気付いた点があれば、濱本主査に連絡すること。

4. 居住性能評価指針の目次案について (資料 No. 17-2-2)

○評価指針の改定案について説明された。

・評価指針は本文と解説からなる。本文の原稿はほぼ完成し、8 月頃までには解説の粗原稿も完成予定である。

→ 設計指針は評価指針発刊後、半年～1 年の間に発刊したい。

→ 設計指針の刊行委員会が設置されるのは来年 4 月のため、発刊は再来年 4 月以降になるであろう。

5. 環境振動設計指針の目次案について (資料 No. 17-2-3)

○濱本主査より目次案の説明があり、意見交換が行われた。

・「1. 適用範囲」と「2. 環境振動設計の基本的な考え方」は濱本主査が担当する。

→ 今回の指針では単一振動源を対象とする。複合問題については将来に向けての課題であることを述べる程度に留める。

- 要求性能は建築主の要求値，目標性能は設計上の目標値と定義する。
- 全体構成を評価指針と統一するか否かは，原稿案を作成しながら決定する。
- ・「3. 振動源による基本的な設計フロー」と「5. 設計例」は，内部人工 SWG，外部人工 SWG，自然外力 SWG の 3 つの SWG が 1 節ずつ担当する。
  - 内部人工振動源は歩行・走行振動と設備振動とする。設計例は歩行振動について作成し，余裕があれば他の振動源についても作成する。
  - 外部人工振動源は交通振動と工場振動とする。資料では工事振動も扱うことになっているが，建物の設計に用いる外乱として工事振動は一般的ではないため今回は採用しない。設計例は道路交通振動について作成する。
  - 自然振動源は風振動と地震動とする。ただし，環境振動で扱うべき地震動については曖昧な点多いため，風振動と大きく異なる様であれば採用しないことも視野に入れて検討する。設計例については風振動について作成する。
- ・「4. 設計のための振動計測」は振動計測 SWG が担当する。
  - 外部人工振動源に対する事前環境調査と，3 つの振動源に対する性能確認調査についてまとめる。

## 6. その他

○SWG 構成の確認（下線は幹事）

○今年度の環境振動シンポジウムについて

- ・2018 年 1 月 23 日(火)に開催される。
- ・設計指針に関する内容が主になるため，上記 4 つの SWG からそれぞれ発表することになる。原稿の締切りは 12 月下旬ごろの見込み。
- ・シンポジウム検討 WG の議事録案をストレージに入れるので各自確認すること。

○次回 WG 開催予定：2017 年 9 月 12 日（火）17:30～19:30

- ・次回 WG までに各 SWG で設計指針の目次案を再考し，資料を提出すること。

以上